

令和6年度 呉市在宅医療・介護連携に関する相談実績

令和6年4月～令和6年8月（8月1日現在）

1 新規相談件数

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	0	4	1	1	1								7

2 相談者の所属機関及び相談内容

所属機関

区 分	件
地域包括支援センター	4
居宅介護支援事業所	
訪問看護ステーション	
介護サービス事業者	
病院・診療所	1
歯科	
薬局	
その他	2

職種

区 分	件
ケアマネジャー	2
看護師	2
保健師	
介護職	
医師	
歯科医師	
薬剤師	
医療ソーシャルワーカー	1
リハビリスタッフ	
その他	2

相談内容

区 分	件
医療・介護連携の調整	1
医療機関の情報提供	3
介護施設の情報提供	
地域資源の情報提供	1
在宅医療・在宅療養	
入院支援	
退院支援	1
その他	1

3 呉市在宅医療・介護連携に関する相談内容と対応

別紙1参照

4 相談から見た現状と課題

- (1) 医療機関の情報提供では、訪問診療や往診に関する相談が多い。これまでの相談も同様である。住民の自宅で過ごしたいというニーズがあることから、訪問診療や往診に関する情報を充足する必要がある。
- (2) 地域の高齢者の中でも、独居で自立している元気な高齢者は、地域の見守り対象から漏れることがある。地域との関係性が希薄している場合、家族歴や受診歴、緊急連絡先などの情報を地域の誰もが把握できていないため、安否確認などに時間と労力を要する。地域ではこのような事例が増えており、地域における高齢者等の情報把握や情報共有の仕組みづくりが急がれる。

5 今後の対応

- (1) 訪問診療や往診に関する情報（訪問可能なエリア、臨機応変な往診等の可否、在宅看取りの実績など）を充足し、定期的に情報更新する。
- (2) 日常生活圏域のケア会議に参加し、高齢者等の支援者の声を聞き、地域支援の現状把握と地域課題の抽出を行う。そして、呉市在宅医療・介護連携推進検討委員会や医療・介護連携ネットワークチーム等で、地域における高齢者等の情報把握や情報共有の仕組みづくりについて検討する。